

具体

抽象

志望学科

事実・経験

事実・経験から導き出した考え・思い

志望学部・学科・専攻の特色・特徴

## 合格自己推薦書（福祉志望の例）

合格自己推薦書①を、**具体** **抽象** **志望学科** で示すと、次のようになります。

合格自己推薦書①  
(再掲)

それは突然訪れました。中学2年の〇月〇日、部活動発表の日のことです。私は幼稚園・小学校・中学校と過ごしてきた、慣れ親しんだ東京を離れ、幼い妹を連れて、母とともに〇〇の地へと移り住むことになりました。本当に突然のことでした。友達や先生方とも別れを惜しむ間もない、あっという間の出来事。

具体①

そして、私は母子家庭の長女になりました。現代の日本では、離婚はそれほど珍しいことではなく、よくあることとして社会的に認知されているとは思いますが、しかし、当事者家族として、しかも、その頃、思春期のまっただ中であつた私には、その事実はとても受け入れがたいものでした。ましてや、住んだことのない、誰も知らない土地での生活。不安を通り越す思い、また、やり場のない怒りを消化できないまま、私は〇〇での生活を続けました。言葉ではなく、身体が普通ではない反応をしてしまう、そのような経験もしました。

抽象①

具体②

私たち姉妹は、宙に浮いた根無し草のように、見知らぬ土地で漂っていました。しかし、母は私たち以上に精神的な動揺・不安感が強く、どうしようもない状態に陥り、カウンセリングを受けたり、福祉関係の方との面談を受けたりするようになりました。今思えば、私はこの時から漠然

抽象②

具体③

とはありますが、福祉関係の道と将来の自己像とを重ね合わせ始めていたのかも知れません。家族という小さいながらも一つの社会が壊れてしまい、現代社会を母・娘二人で生き抜いていくということは、経済的にも精神的にもかなり大変な状況です。私はそのことについて、実感をもって語れます。小さな社会が壊れたならば、それを包み込む大きな社会が、セーフティネットの役割を果たさなければ、私たちは生きていけなくなっていたでしょう。

抽象③

私は〇〇大学〇〇学科で、福祉というものを学問として深く学び、実践力を身につけて、福祉の道を歩いていきたいと強く希望します。そして、もう一度、東京に戻って、中学2年で途切れてしまった東京での私の時間を、再び紡いでいきたいです。

志望学科

高校時代は、すべての教科について努力し続けました。あらゆる教科が私を成長させてくれる栄養剤だと考えていました。飛び抜けた才能はありませんが、私には努力する才能があります。それが自分を推薦する最も大きな理由です。入学後も、努力を積み重ねていく覚悟があります。

【事実】から抱いた【思い】が【志望学科】につながる